

バスケット ボール部

設立	1950年4月
会長	清水 史郎(応用化学科)
学生数	45人
OB・OG連絡先	伏見 知行
OB・OG人数	485人

創部当時の思い出

『藤原工業大学豫科誌創刊号』（1941年12月刊行）によれば、藤原工大予科の籠球部は英語教員山崎静二を部長とし1941年3月には日本籠球協会に登録している。太平洋戦争の開戦を前にして、社会の状態が緊迫しボールや靴などが入手困難なことに加え、コートが無いことを悩みの種としている。しかし、「部員一人ひとりの胸にはパイオニアとしての情熱が燃えている」と抱負を語っている。初試合は、1941年6月に神奈川県下シニヤ大会であり、関東学院OBのスワローと対戦している。神宮大会(今の国体)では横浜ゴムと対戦、練習試合では法政大学と戦っている。1941年の校内対抗バスケットボールをお世話している。1年D組(3期生)が優勝とある。その後、戦争の激化、日吉校舎の焼失、これに伴う移転と、活動ができなくなっていたことは想像に難くない。

現在につながるバスケットボール部は、1950年頃に11期の先輩が中心になって設立されたようである。残念ながらバスケットボール部には正確な部史が無く、現在では創部についての明確な記録を得ることができない。



13期卒業アルバムより 1955年

しかしながら、バスケットボール部は創部以来のOB名簿を毎年度刷新して、新たな卒業生を付け足して行く慣例により、バスケットボール部に在籍していた全員の氏名と卒業当時の所属を把握することは可能である。

小金井時代の苦勞

バスケットボールは試合を行う場合、ボール以外にも地上10フィート(約3m5cm)のゴールリングとバックボードが必要である。また、スピード感あふれパワフルなプレーをするためには、磨き上げたコートとストップの効くシューズが必要である。バスケットボールが可能な独自の体育館が理工学部にはないため、歴史的に外部の体育館を借用して練習とプレーを行ってきた。

小金井時代の様子を1962年6月24日に三田キャンパスで開催された「23周年工学部祭」に際して、工学部と工学部自治会が共同で刊行したパンフレットに残る記事より眺めてみる。

部記録から……

4月2日～8日

東北大と合同合宿。苦しかった。楽しかった!

4月13日

新入生小金井見学。雨の中で宣伝につとめるも留学生が1人入ったのみ。

4月17日

練習開始。出席率良好。

4月23日

祝関東理工科系籠球連盟結成参加13校。
スポーツニッポン社後援。

5月12日

新入部員歓迎コンパ。ゆかいだった。新部員14名。部員総数40名余。

5月20日

関東理工選手権開始。開会式。日吉記念館。

我が部2回戦で敗退。無念。

1回戦 工学部 61-41 電通大

2回戦 工学院 65-50 工学部

矢上移転後

現在の体育館は新幹線のトンネルの上に建っているため規模の制限があり、バスケットボールやバレーボール等の球技ができない格技専用となっている。バスケットボール部の歴史は、練習場の確保の歴史でもある。矢上移転後、一時は日吉の記念館を借りて練習ができた時期はあったようであるが、常時は、普通部の体育館を借りて練習や試合を行うことが多かった。しかし、さまざまな理由から、現在では川崎市や目黒区などの中学校や公共の体育館を借りて練習を行っている。

将来にわたり、いつか理工学部独自の体育館でプレーできることがバスケットボール部の悲願でもある。そのような厳しい練習環境の中でも、明るさのある練習を日々重ね、成績を残している。

現在の活動状況

(1) 大会参加：関東理工系リーグ

関東理工系リーグは春季(2~3月)、夏季(5~6月)、冬季(11~12月)に、6チームずつ複数の部に分けて開催されている。部は1部から4部まで存在し、1部がもっとも上位にあたり、当団体は1部に所属している。春季、夏季、冬季3つのリーグの試合結果により定めたチームの順位の最下位のチームは下の部に自動降格し1位のチームは上の部へ自動昇格する。また、上の部の最下位から2番目のチームと下の部の2位のチームによる入れ替え戦が行われ、勝者が上の部に残る仕組みとなっている。

以下に最近1年間の試合戦績を記す。

2012年冬季 1部1位

2013年春季 1部1位

2013年夏季 1部1位

2013年冬季 1部3位



関東理工系春リーグ 2012年3月



関東理工系春リーグ優勝時 2013年3月

(2) 活動状況

●練習

週2、3回の練習を主に神奈川県内の地区センターやスポーツセンター、中学校もしくは高等学校にて2~4時間程行っている。以下に主な練習場所を示す。

- ・横浜市綱島地区センター
- ・世田谷区立八幡中学校
- ・横浜市中スポーツセンター
- ・神奈川県立住吉高等学校
- ・世田谷区立砧南中学校

●練習試合

慶應義塾もしくは早稲田大学など、他大学のバスケットボールサークルや他大学のバスケットボール部などと、試合前の調整の為練習試合を2カ月に1回ほど行っている。

●合宿

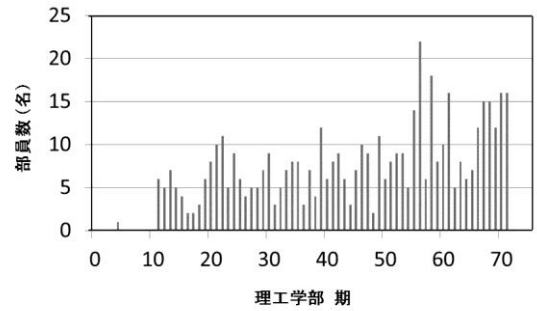
集中的に練習を行うため、春(2月)、夏(8月)に1回ずつ4~5日間の合宿を行っている。

●OB戦

年に一度OBの方々や現役の選手とで試合を行い、交流を深めている。



砧南中学校での練習 2013年



各期別部員数 (OB 会名簿より)

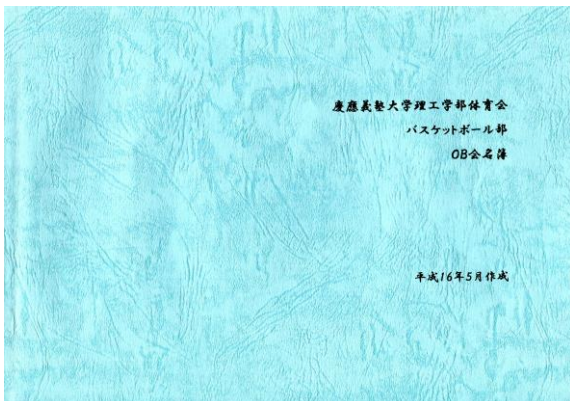
<活動のスナップから>

近年の様子

理工体として現役の人数が男子 40 名程在籍しているため、普段から非常に活気ある練習を重ねている。この部の特徴としては理工学部以外の学部の選手が多数在籍し、皆が仲良くかつ真剣に練習を行う点で、さらには練習のみならず合宿において多数の OB が駆けつけ、部員へのアドバイスをを行い、交流を深めている。

OB の方々の縦のつながりと、学部をまたいだ横のつながりが、矢上部体育会バスケットボール部の実力を高め、それが結果的に理工系リーグでの優れた実績につながっていると考えられる。

これからも、勉学に励むとともに、体育会の精神を受け継いだ同好会として、そして理工学部体育会として、部内で切磋琢磨し、試合で良い結果を出せるよう努力して欲しい。



理工学部体育会バスケットボール部 OB 会名簿